

実践のまとめ（第3学年 英語科）

授業公開日 令和6年11月22日第5校時

指導者 柏崎市立第一中学校

教諭 坂井 駿祐

1 研究テーマ

プロジェクト型学習を通して、生徒の主体性を育成する単元構成

2 研究テーマについて

(1) 研究テーマ設定の意図

中学校外国語指導要領では、単元構成について以下のように述べられている。「生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、具体的な課題等を設定し、生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行うこと」。そこから生徒が単元を通して1つのゴールを見ながら学習できるよう、プロジェクト型学習を採用して今年度の単元構成を作成している。単元の始めに単元末のプロジェクトを提示し、新出文法の導入や本文読解などを最終的なゴールの活動にも直結するものとするすることで、単元を通して生徒が主体的に活動できるような単元構成をしようと考えた。

新出文法の導入時などに、言語活動を通して実際の使用を繰り返すことで定着を図っている。しかし、その時間のみの場面、状況設定となってしまう、パフォーマンステストでの使用場面に直結しないことが多かった。そこで、言語活動や帯活動をすべて最終的なパフォーマンステストの課題へとつながるものにするすることで、毎時の学習が生徒一人一人の技能向上だけでなく、パフォーマンステストへの見通しの確保や不安の解消に繋がる。

プロジェクトの題材設定については、中学校外国語指導要領を参考に設定する。話すこと[発表]の目標のひとつに「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。」というものがある。単元の始めにALTからのお願いなどを生徒に提示し、生徒自身のことについても交え、内容を考えながら単元の学習を進め、帯活動や言語活動の中で使用できる表現を獲得していく。

(2) 研究テーマに迫るために

① 単元開始時のプロジェクト提示

第3学年は年間で8つの単元構成となっている。各単元の初回でその単元のパフォーマンステストの導入を行い、内容説明も行う。事前に導入と内容説明を行う目的は以下の2つである。1つ目は、生徒が事実や自分の考え、気持ちなどを余裕をもって整理する時間を確保することである。当校第3学年の生徒の中には自分の意見を表現することを苦手を感じる生徒が多い。パフォーマンステストの内容提示後すぐに活動に取りかかると、考えをまとめるのに多く時間がかかってしまうことがあった。そのため、事前に考えたり、授業の中でヒントを得る時間を確保したい。2つ目は、言語活動の中で習得する表現をどのようにパフォーマンステストの中で使用していくかのイメージを持たせることである。単元の見通しを持ちながら、使用できる表現を駆使して自分の考えや気持ちを整理しながら毎時の学習に臨むことができるようにする。

② 言語活動での獲得表現の蓄積

毎時、その単元のパフォーマンステストに類似した言語活動を帯活動として設定する。本番のパフォーマンステストでどのような発話をする事ができるかというイメージを持つこと、さらには表現の獲得を目的として設定する。その際の中間指導や振り返りで獲得した表現をそれぞれの生徒が蓄積するためにワークシートを使用する。自分の発表に必要な表現をまとめていくことで、生徒の主体的に学習する姿を期待したい。

(3) 研究テーマにかかわる評価

① パフォーマンステスト

ALT によるパフォーマンステストの「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の A 評価の割合が前回の単元末のパフォーマンステストよりも多いこと。また、パフォーマンステストの様子を動画に撮り、それまでの練習の様子と比較し、生徒が使用する表現の種類や、発表に向かう姿勢に改善がみられること。

② 単元内の振り返りの見取り

毎時の授業と単元末で振り返りを記入する。その中で、「これまで練習してきた表現や感じたことを意識しながら取り組むことができた。」といったニュアンスの内容をどれくらいの生徒が感じたかを見取る。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

PROGRAM 6 The Great Pacific Garbage Patch (Sunshine 3 開隆堂)

(2) 単元の目標

日本に旅行に来る家族をもてなすための観光プランを考えている ALT のために、意向に沿った観光地の情報を集め、簡単な語句や表現を用いてそれぞれの観光地の良さや特徴を詳しく紹介することができる。(話すこと[発表])

(3) 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・関係代名詞（目的格）の特徴やきまり、表現の仕方を理解している。 ・人や場所について、考えたことや知っていることなどを、関係代名詞を使って説明する技能を身に付けている。	柏崎の観光プランを考えている ALT のために、写真などの資料を提示しながら、簡単な語句や表現を用いて柏崎の良さや特徴を詳しく伝えながら紹介することができる。	柏崎の観光プランを考えている ALT のために、写真などの資料を提示しながら、簡単な語句や表現を用いて柏崎の良さや特徴を詳しく伝えながら紹介しようとしている。

(4) 単元と生徒

3年1組の生徒は、英語に苦手意識をもっている生徒が多くいるが、ペアワークやグループワークには一生懸命取り組む姿が見られる。しかし、学力の差が大きいことで、英語を積極的に使用する姿勢の生徒と、わからなくてついつい日本語を使ってしまう生徒のペアも多く見られる。しかし、言語活動を繰り返す中で単語だけでもなんとか英語で伝えようという姿勢がみられるようになってきた。まだまだ英語で伝えることを苦手と感じる生徒は多いが、前向きな姿勢で授業に臨む生徒が増えてきている。

今年度はプロジェクト型学習を採用しているため、単元の開始時に単元末のパフォーマンステストの導入を行い、それに向けて毎時の授業で言語活動を通して練習を行う形で授業を行ってきた。これまでにやってきたパフォーマンステストは、「防災ガイドブックの作成」

「各国のオススメ〇〇サンドについてインタビュー」「お気に入りの日本文学の紹介」「日本の有名人紹介」などである。これまでは伝えたいことをどのように英語で言えるのかすぐに ICT 機器を使用して検索し、そのままメモに書き記す場面も多かった。しかしそうしてしまうといざ発話を行う際に発音がわからなかったり、丸暗記しようとして覚えきれなかったりという事態に陥ってしまう。そのことに気づき始め、簡単な表現を使って自分の k 所と場で伝えようとする生徒が増えてきた。

英語でのやりとりに苦手を感じる生徒が多いため、帯活動の中で Small Talk や、人や物を紹介するといった形で行うクイズなどに毎時間取り組んできた。初めは会話を続けることが難しいペアも多く見られたが、会話内容や質問内容を共有したり、参考になる表現を蓄積していくことで徐々に会話の幅が広がり、ペアでの会話を続けることができるようになってきた。

本単元では、PROGRAM 6 のあとに設定されている Our Project⑧と統合し、柏崎の観光プランを考えて紹介する活動をゴールとして設定した。日本に来て 1 年の ALT が、柏崎に旅行に来る家族を案内したいという状況で、柏崎のオススメスポットを魅力と共に紹介して素敵な時を過ごしてもらおうというモチベーションで活動に取り組みたい。練習をする中で、好みや希望などの情報を小出しにしていくことで、自分が紹介したいという理由だけでなく、相手のことを考えてより好んでもらえるような提案するために、修正を加えていこうとする態度を養いたい。

(5) 単元の指導と評価の計画（全 10 時間、本時 8 / 10 時間）

時間	ねらい（■），言語活動等（丸数字）	知	思	態	備考
1	■単元の導入と、単元のゴールの確認 ①ALT からのビデオか、対面での導入 Program 6 Scenes 1（関係代名詞 which） ■自分が行きたい観光地を紹介することができる。 ②Small Talk ③ペアで自分の行きたい観光地と、そこでできることを紹介し合う。 ④中間指導。 ⑤ペアを変えて再度紹介し合う。				記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにならないよう十分留意する。
2	Scenes 2（関係代名詞 that） ■オリジナル自己紹介カードを作って、相手に説明することができる。 ①Small Talk ②自己紹介カードを作成する。 ③自分が作成した自己紹介カードを相手に説明して、書いてもらう。				
3	Scenes 3（接触節） ■相手の「一番」を質問することができる。 ①Small Talk ②教師による導入を聞き、質問のイメージを持つ。 ③ペアに聞きたい内容を考えて記入する。 ④事前に考えた質問を基に、会話を広げていく。				

4	Think 1 ■「太平洋で見つかったもの」について記事を読み取ることができる。 ①Small Talk ②本文を読み、ペアでおおまかな内容を確認する。 ③教科書の Q&A に取り組む。 ④音読を通して発音と内容を確認する。				記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにならないよう十分留意する。
5	Think 2 ■「海のプラスチックごみ問題」について記事を読み取ることができる。 ①Small Talk ②本文を読み、ペアでおおまかな内容を確認する。 ③教科書の Q&A に取り組む。 ④音読を通して発音と内容を確認する。				
6	Think 3 ■「ボイアン・スラット」について記事を読み取ることができる。 ①Small Talk ②本文を読み、ペアでおおまかな内容を確認する。 ③教科書の Q&A に取り組む。 ④音読を通して発音と内容を確認する。				
7	■グループで柏崎の観光スポットについてのマインドマップを作ろう。 ①Small Talk ②パフォーマンステストの内容確認 ③教師によるモデリングを見て、具体的なイメージを持つ。 ④グループで柏崎のおすすめスポットや食べ物など、紹介できそうなものを話し合っマインドマップを作成する。 ⑤メモを作成する。				
8 本時	■Sila のお母さんの好みに合った内容を考えよう。 ①前時に作成したメモを見ながらペアで練習をする。 →スタッキングシートに記入 ③ALT の母親の好みについての追加の情報を提示する。 ④新たな情報を考慮して新たなメモを作成する。 ⑤新しいメモを見ながらペアで練習をする。 ⑥中間指導 ⑦ペアを変えてもう一度練習をする。		○	○	

9	■ペアやグループでSilaが採用したくなる発表にするために必要なことを考えて練習しよう。 ①ALTの母親の好みについての追加の情報を提示する。 ②新たな情報を考慮して新たなメモを作成する。 ③新しいメモを見ながらペアで練習をする。 ④中間指導 ⑤ペアを変えてもう一度練習をする。 ⑥紹介時に使用するスライドを作成する。		○	○	
10	■Silaに観光プランを提案しよう。(評価タスク) ①ALTに自分が作成した観光プランを紹介しよう。(話すこと[発表])	○	○	○	
後日	ペーパーテスト	○	○		

4 本時の展開

(1) ねらい

相手の好みや希望に沿った柏崎の観光プランについて、簡単な語句や文を用いて伝えることができる。【思考・判断・表現】【主体的な態度】

(2) 展開の構想

前時までにマインドマップを作成しそれを参考に紹介する内容のメモを作成した。本時は毎時間行っている Small Talk の代わりに、そのメモを使用して発表の練習を行う。そこで考えたことや得た表現などはスタッキングシートに残しておく。本時の主な活動は、新たな情報を得たうえで、発表のためのメモを修正し、ペアで発表の練習をすることである。それまでは自分が伝えたいことを軸に発表内容を考えていたが、相手の好みや希望を伝えることで、生徒がより相手意識をもって内容を練り上げようとする姿勢を期待する。

ペアでの練習の際には、中間指導を行い内容を共有したり表現の仕方を考えたりする。それらを蓄積してきたスタッキングシートも使用しながらペアでの練習を質の高いものにしていく。

(3) 展開

時間 (分)	・学習活動	○教師の働き掛け ●予想される生徒の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
W-Up (10)	・前回作成したメモを見ながらペアで発表練習。	○机間巡視を行い、生徒の発話をピックアップする。	○必要に応じてその場で支援を行う。 ◇スタッキングシートに表現等を記入する。
導入 (3)	・ALTの母親についての追加の情報を提示する。	○動画で情報を提示する。 ●自らのメモと比較する。	○必要に応じて動画を繰り返し再生したり、ペアで内容を確認したりする時間を確保する。

展開 (32)	相手の好みや希望に沿った柏崎の観光プランについて、簡単な語句や文を用いて伝えることができる。 ・メモを作成する ・ペアで練習① ・中間指導 ・ペアで練習②	○本時の目標を提示する。 ○パフォーマンステストの目的、場面、状況を再確認する。 ●新しいメモを作成する中で、必要に応じて情報収集を行う。 ●役割を決めて交互に行う。 ○対話をしながら指導を進める。 ○必要に応じてメモを取るよう指示する。	○必要に応じてメモを作成するための支援を行う。 □言語活動の様子の見取り 【思・判・表】【主体的】 ◇板書プレートを使用して、「Questions」「Contents」等を整理しながら指導する。
終末 (5)	・ワークシートの振り返りを記入。		□振り返りの記述【思・判・表】【主体的】

(4) 評価

ワークシートのメモや記入内容から、発表内容を修正してわかりやすく伝えるための情報をまとめることができているか、またその態度が見られるかどうかを見取る。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	相手の好みや希望に合わせて、伝える情報を選ぶことができる。また、それらを簡単な語句や表現を使って伝えることができる。	相手の好みや希望に合わせて、伝える情報を選ぼうとしている。また、それらを簡単な語句や表現を使って伝えようとしている。

5 成果と課題

(1) 成果

① 単元目標を意識した授業構想

単元の初回の授業で振り返りシートを配付した。その中でゴールとなるパフォーマンステストとなる課題も同時に提示した。それによって、生徒は単元を通して何ができるようになれば良いのか、また授業の中で最終課題に活用できる表現の獲得に向けて意欲的に活動する姿が伺えた。特に英語が苦手な生徒にとっては、最終課題までに時間的な余裕があること、汎用性の高い表現を獲得し、自分の英語に当てはめて使用できるようにすることは必要不可欠である。どの生徒も参加できる授業を作っていくためには、教師にとっても生徒にとっても見通しの持てる単元構成が有効であった。

② 主体的に関わることができる課題設定

中学校学習指導要領解説外国語編でも、話すこと[やりとり]の目標の中で「ア 関心のある事柄について」「イ 日常的な話題について」と述べられているように、生徒にとって身近なことや、興味関心のある事柄について紹介したり、話し合ったりすることを目標として活動することで、主体的な学習につながると考える。本講座を受講するにあたり、

ALTに協力してもらったり、他教科との連携を図ったりした。そうすることで、生徒が自分の生活や経験に結び付けて活動する様子が見られた。

(2) 課題

① 中間指導

現在、中間指導は個別の課題に焦点を当てており、学級全体に共通する学びが不足している。生徒一人一人の発話内容に対応するため、全体に有益な指導方法を探る必要がある。具体的には、板書の工夫や、共通の学習ポイントを明確にし、生徒全員が意義を感じられる中間指導の在り方を検討する必要があると考える。指導の汎用性を高め、学級全体の英語コミュニケーション能力の向上につなげていきたい。

② ICTの活用

各生徒の活動が他の生徒に見えにくいという課題がある。この問題を解決するため、デジタルホワイトボードやオンラインコラボレーションツールを活用し、リアルタイムで生徒たちの進捗や成果を共有できるようにする。これにより、中間指導の時間を取ることなく、生徒が自分のタイミングで他者の良い例を参考にすることができると考える。

③ 相手意識のあるコミュニケーション

生徒の言語活動を見ていると、原稿に頼りすぎて、視線を下げ、アイコンタクトやジェスチャーを活用できていない状況が所々にみられる。実際のコミュニケーションを意識させるため、ロールプレイやスピーチ練習時に、原稿を短くし、アイコンタクトを意識的に行わせる指導が必要である。相手の反応を意識し、身振り手振りを交えながら伝える活動を取り入れることで、より自然な言語使用を促していく。

<参考・引用文献>

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編』。文部科学省。2017

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』。国立教育政策研究所。2020